



「負けられない戦い×舞茸」

開催日：2024年10月5日～6日

メンバー：齊藤敦(リーダー)、上田勉、渡部信雄
寺尾一木、平江誠、三瓶こずえ、大貫和之
鈴木伸明、黒須悠輔

報告者：黒須悠輔

江戸時代に東北地方の大名が舞茸を江戸の幕府に献上したという言い伝えがある。その評判は良く幕府から再度の所望があり、代官から命令が出て村人たちは深い山に入り探し回った。やっとの思いで採ってきた舞茸を代官に献上すると、同じ重さの銀を褒美にもらえたほど希少価値があったという。そのため村人達は競い合うように山に入り、舞茸を見つけると舞い踊って喜んだことから舞茸という名前がついたとも言われる。

これは江戸から200年近く経った令和においても
変わらず競い合っている人々の記録である

秋の訪れに合わせて宇溪会キノコキャンプが今年も開催されることとなった。キャンプは昼過ぎからで、午前中は参加できるメンバーでキノコ狩りというスケジュール。狙いはもちろん天然舞茸だ。

キノコ狩りに参加したのは私と大貫さん、そしてキノコに関して只ならぬ知見がある寺尾さんの三名。夜11時、前夜祭会場に集まり、ドラえもののポケットと化している寺尾さんの車からブルーシートを引っ張り出し、宴会場は完成。寺尾さんが持参してきたヒグマ肉や松茸をこれでもかと贅沢に投入した極上鍋のご馳走を堪能しながらも、私と大貫さんは**我こそが一番多くの舞茸を採ってくるのだ**と静かに闘志を燃やしていた。



ヒグマの豪快な旨味と松茸の上品な香りを一度に味わえる鍋
二人の内心を表すかのように煮えたぎっている

翌朝、駐車場を出発し、ブナ・ミズナラ林に入る。山は本格的にキノコシーズンに突入しお目当てのキノコ以外にも珍しいシャカシメジやヤマブシタケなどいろいろと発生していた。



シャカシメジ(お釈迦様の頭のような姿が由来)



ヤマブシタケ(山伏(やまぶし)の袈裟についた梵天が由来)



ホンシメジのようだが…



ベニテングタケ(有名な毒キノコだが実は美味)

効率的にキノコを探すために、尾根を起点として私は左側斜面、寺尾さんは尾根中央、大貫さんは右側斜面というようにそれぞれ 20m 程度離れて山を登っていると、遠くの方から声が聞こえてきた。

大貫さん 「舞茸あったぞ〜！」

寺尾さん 「お〜そうか〜」

黒須 「りよ〜かいで〜す (ちくしょ〜、先制点取られたか)」

大貫さん 「こっち来いよ〜」

寺尾さん 「黒須〜！大貫君がこっち来いって言ってるぞ〜どうする〜？」

黒須 「いやこっちも探しているし遠いから大丈夫で〜す！舞茸とっちゃってください〜い！」

大貫さん 「いいからこっち来いって〜」

寺尾さん 「黒須〜！大貫君なんか見せたいみたいだよ〜」

黒須 「だからいって〜こっちもミズナラあるし遠くて大変だよ〜(早く挽回しないとイケないんだ!)」

こんなやりとりが数分間続き埒が明かないので、結局しぶしぶ見に行くことに。

どうせ小ぶりな赤ちゃん舞茸だろ〜なんて思いながら歩いて行くと、ミズナラの老木の側に大貫さんが誇らしげに立っている。「どれどれ」と根本付近に目をやると、
「ん？」「あれっ？」

「なんじゃこりゃー!？」



写しきれないほどの収穫量

我々に見せたくなるのも無理はない。一本のミズナラでこんなに大発生しているのは珍しい。キノコキャンプ用とお土産用を考慮しても十分な収穫量(10kg位)だ。これで私の負けん気に火が付いた。必死に藪を掻き分けながらズルズルの急斜面を登るとブナハリタケが群生していたが、それには目もくれず、更にも上にあるミズナラの老木を発見、遠目で見てもお目当てのキノコが！！さっきのに比べたら小ぶりだが状態はこちらの方が若く良いようだ。それによく見ると片方は天然舞茸の中で最も極上とされる**黒舞茸**ではないか。初めての黒舞茸に感動と興奮を覚えるが、のんびりしてたら大幅リードしている大貫さんの勝利を許してしまうため、素早く収穫し、次のミズナラを探すために再びトラバースを開始。



茶まい



舞茸の王様 黒まい

しかしその後は誰も見つからず下山の時間が迫っていたので一旦集まり話し合う。ここでキノコの知見に関しては只者ではない寺尾さん(他多くの分野でも只者ではない)が「この状況だと、真っ直ぐに駐車場へ下山するよりも斜面をトラバースしながらスタート地点に戻ったほうが、もしかすると良いかもよ」と何気なく言うのでそうすることに。

再度分かれて斜面を横に進みながら、ミズナラを見つけたらすかさず駆け寄り、くまなく探すも舞茸は見つからない。入山地点まで近くなり、「悔しいが今回は大貫さんに敗北か」と諦めかけた…そのとき、「あっ！」
「あれは…もしや！」

「あったぞー！」



1 株数 kg になる重量級の舞茸があちこちに

状態の良い舞茸を大量に見つけることができ喜びを噛みしめる。これだけあれば最初に大貫さんが見つけた舞茸の総量は超えているだろう。今回の MVP は私のものだと勝利を確信し、意気揚々と駐車場に向かった。



予想が的中した寺尾氏
「俺ちんの言ったとおりだろ？ガハハッ！」
この御仁、やはり只者ではない



勝利を確信した私

駐車場に戻ると大貫さんと寺尾さんは既に待っていた。「採れたか～」の問いに「沢山取れました～」と自慢げに応える。それではと寺尾さんがブルーシートに各自採ってきた舞茸を並べよと言うので、運動会の玉入れのごとく、カゴから「ひと～つ、ふた～つ」と並べていく。勝敗は下の写真をご覧ください。



寺尾氏を挟んで左側:大貫選手 右側:黒須選手
勝敗は一目瞭然

「俺、負けてるじゃん! (´;ω;`)」

大貫さんの大容量竹カゴがはちきれんばかりになっていたのが目に入ったときから結果は分かっていた。悔しいが今回は敗北を認めざる負えない。参りました、来年リベンジすっぞ。

<キノコキャンプ>

昼過ぎから開催されたキノコキャンプでは、齊藤会長、平江副会長、こずえさん、上田さん、ハマナベさん、鈴木(伸)さんも加わり宴会が盛大に開催された。我々がキャンプ場に到着したころには既に諸々の準備は整っていた。ありがとうございます。宴会では我々が採ってきた舞茸を使った舞茸炊き込みご飯や、こずえさんが作ってくれた絶品ムキタケシチュー、各々の一品料理などご馳走が並んだ。



大量の舞茸をめんつゆで炒める



あとはご飯と一緒に炊くだけ

なかでも珍味?として寺尾さんがゴツリ採ってきたベニテングタケが器に盛られて出されたときには驚きを隠せなかった。なんせベニテングタケは凶鑑で強い毒を持つキノコと扱われていたからだ。しかし会

の先輩方は躊躇なく食べている。寺尾氏いわく、ベニテングタケに含まれるイボテン酸は毒成分であると同時に強烈な旨味成分でもあり、調理次第では食べられるとのこと。それではと食べてみると確かに他のキノコでは味わったことのない強い甘みがあり美味い。いや～良い経験させてもらいました。



炊き込みご飯の出来上がりは完璧



躊躇なくベニテングを食す平江さん



奥只見のシルバーバックこと上田さん
遠方からご参加ありがとうございます



熱く語るダンディなハマナベさん



今回入った山の城主、齋藤さんへの献上品も欠かさず
黒舞茸でなくてすみません！！



宴会は夜遅くまで続く

キノコキャンプに参加された皆様、大変お疲れ様でした。
来年もよろしくお願いいたします。